

# 2022 年から 2025 年にかけてブナオ山観察舎室内で採集された クモ類及び昆虫類の記録

中 田 勝 之

石川県白山自然保護センター

## Records of insects and spiders inside Bunao Mountain Observation Building, Ishikawa prefecure, Japan, 2022 to 2025

Katsuyuki NAKATA

*Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

ブナオ山観察舎（以下、「観察舎」とする。）周辺の生物多様性解明を目的として、2022 年から 2025 年の冬季間に観察舎内でクモ綱および昆虫綱の採集調査を行った。その結果、クモ綱は 1 目 1 科 2 種、昆虫綱は 7 目 40 科 79 種となり、計 8 目 41 科 81 種を記録した。そのうち昆虫綱のカメムシ目の 3 科 5 種、コウチュウ目の 1 科 1 種、ハエ目の 8 科 11 種、ハチ目の 2 科 3 種の計 20 種が石川県新記録と思われる種で、これらは全体種数の約 25% である。観察舎内で採集された種の約 1/4 が県新記録と思われることは、冬季の山間部での昆虫綱の調査が不十分で、引き続き調査継続の必要性があると考えられる。

### はじめに

観察舎は、対岸のブナオ山に生息する哺乳類や鳥類などの観察のために設置された石川県管理の野生動物観察施設であり、石川県立白山一里野自然公園区域内（以下、「県立公園」とする。）に位置する。

この観察舎から観察された哺乳類について、小谷ほか (2018) は、1981 年の開館以降の記録を報告している。

そのほかの動物類として昆虫類では、近年観察舎内外での採集・観察記録の報告が相次いでいる。

観察舎内での採集記録として、中田・大宮 (2023) はハエ目 15 科 31 種、中田・池田 (2023) は、全国的に採集例の少ないコウチュウ目ジョウカイモドキ科のナラアオジョウカイモドキを報告している。また、中田 (2024) は観察舎内で見つかる昆虫類の特異な生態等を紹介した。

観察舎周辺の観察記録として、平松ほか (2023) がエルタテハ、中田ほか (2024) は、ギフチョウの

ウスバサイシンの葉の表側への産卵を報告している。採集記録では、中田・加藤 (2024) が観察舎周辺でヒメガガンボ科 3 種とガガンボ科 1 種を報告したほか、中田ほか (2025) では、イエローパントラップ（黄色水盤）設置によるハチ目の調査結果のうちギングチバチ科を報告しており、同時に得られたクモバチ科やハナバチ類は、現在同定作業中である。

このとおり、観察舎内外の生物多様性が注目されはじめており、その解明が進みつつある。

今回、これらの報告と同様にブナオ山観察舎を含む県立公園内の生物多様性解明を目的として、2022 年から 2025 年にかけて観察舎内で採集され同定の終わったクモ綱と昆虫綱について報告する。

### 方法

#### 1. 調査地

調査地である観察舎は、図1のとおり石川県白山市の白山麓の手取川支流の尾添川左岸に位置し、石川県立白山一里野自然公園区域内である。

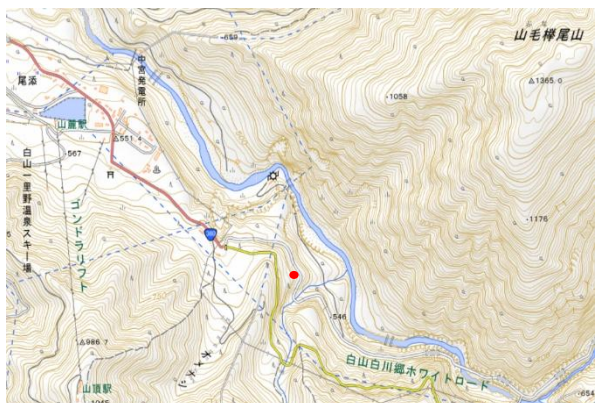


図1 赤丸が調査地（観察舎）の位置  
国土地理院地図を加工して作成。

観察舎内は動物観察のためのガラス窓が四方に設けられている（図2）。

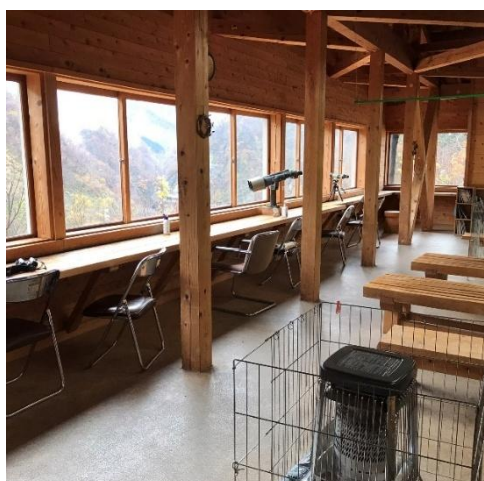


図2 調査地（観察舎）の様子

また、観察舎周辺の植生は落葉広葉樹が主体であり、対岸のブナオ山の大部分は白山国立公園区域となっており、名前のおおりのブナ林のほか高茎草原が優占する。

因みに白山麓全体が全国でも有数の豪雪地帯であり、観察舎周辺も同様で、例えば2025年2月の最大積雪深は350cmであった。

## 2. 調査方法

観察舎内の調査は、基本的に毎年11月20日から翌年5月5日までを開館期間とした上で、2022年から2025年を調査期間とした。

調査時間は開館時間の10時から16時の任意の時

間として、観察舎内で見つかる昆虫類やクモ類を殺虫管や吸虫管で採集した。

以下の記録種リストの学名および配列は日本産昆虫総目録Ⅰ・Ⅱ（九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物センター, 1989）に従ったが、カメムシ目は石川ほか（2012）、コウチュウ目は鈴木（2025）、ハチ目ヒメバチ科は渡辺・藤江（2022）、ハチ目スズメバチ科は寺山・須田（2016）、ハチ目ハナバチ類は多田内・村尾（2014）の配列に従った。

本調査のリスト作成に当たり、以下の分類群はそれぞれ専門家に同定いただいております、そのほかは筆者が文献により同定している。

なお、特段の記述がない場合は全て筆者が採集し標本を保管している。

須黒達巳氏	クモ綱
長島聖大学芸員	カメムシ目の一部
奥島雄一学芸員	ジョウカイボン科
亀澤洋氏	カツオブシムシ科, テントウムシ科
的場績氏	ゾウムシ科
八神徳彦氏	カミキリムシ科
加藤優羽氏	ハバチ科および種ごとのコメント
渡辺恭平学芸員	ヒメバチ科, コハナバチ科

## 結果

### 1. 全体結果

今回、観察舎内における調査の結果、クモ綱は1目1科2種、昆虫綱は、7目40科79種を記録することができた。以下に種ごとの報告を行う。

なお、和名左の黒丸●は、石川むしの会・百万石蝶談会（1998）に掲載されていない種である。

### 2. 記録種ごとのリスト

#### クモ綱

#### クモ目

#### ハエトリグモ科

*Carrhotus xanthogramma* (Latreille, 1819)

ネコハエトリ

2♂(幼体), 9. III. 2023; 1♂(幼体), 22. III. 2023.

*Plexippoides annulipedis* (S. Saito,1939)

マダラスジハエトリ

1♂(幼体), 9. III. 2023.

ヘラクヌギカメムシ

1♂, 22. XI. 2022.

(石川・宮本, 2012) により同定。

## 昆虫綱

### バッタ目

#### カマドウマ科

*Diestrammena japonica* Blatchley,1920

マダラカマドウマ

1ex., 30. IV. 2023.

(杉本, 2006) により同定。

### ハサミムシ目

#### クギヌキハサミムシ科

*Anechura harmandi* (Burr,1904)

コブハサミムシ

1ex., 11. I. 2023; 1ex., 22. I. 2023; 1ex., 9. III. 2023;

1ex., 15. III. 2023.

(石原, 1965a) により同定。

### カメムシ目

#### サシガメ科

*Isyndus obscurus* (Dallas,1850)

オオトビサシガメ

1♀, 4. IV. 2022; 3♀, 6. IV. 2022; 1♂, 12. IV. 2022.

そのほか調査期間中に多数個体を確認。

#### ヘリカメムシ科

*Leptoglossus occidentalis* Heidemann,1910

●マツヘリカメムシ

1♀, 26. XI. 2023.

#### クヌギカメムシ科

*Urochela quadrinotata* (Reuter,1881)

ヨツモンカメムシ

1♂, 9. III. 2025; 3♂, 25. XI. 2025.

*Urostylis striicornis* Scott,1874

サジクヌギカメムシ

(石川・宮本, 2012) により同定。

1♂, 2. XII. 2022.

*Urostylis annulicornis* Scott, 1874

### カメムシ科

*Eocanthecona japonicola* (Esaki & Ishihara,1950)

●シモフリクチブトカメムシ

1♀, 2. IV. 2023; 1♀, 2. IV. 2023.

*Halyomorpha halys* (Stal,1855)

クサギカメムシ

1♀, 4. IV. 2022; 1♀, 11. IV. 2022.

そのほか調査期間中に多数個体を確認。

*Menida disjuncta* (Uhler, 1860)

スコットカメムシ

1♀, 4. IV. 2022; 4♀, 6. IV. 2022; 1♀, 12. IV. 2022.

そのほか調査期間中に多数個体を確認。

*Lelia decempunctata* (Motschulsky,1860)

トホシカメムシ

1♀, 10. I. 2023.

### ツノカメムシ科

*Acanthosoma haemorrhoidale* (Linnaeus,1758)

●ツノアカツノカメムシ

1♂, 7. IV. 2023; 1♂, 20. IV. 2023; 1♂, 27. XI. 2023.

*Acanthosoma labiduroides* Jakovlev, 1880

ハサミツノカメムシ

1♂, 7. IV. 2023; 1♂, 27. XI. 2023; 1♀, 15. I. 2024.

*Elasmotherus rotundus* Yamamoto,2003

●ヒメアオモンツノカメムシ

1♀, 11. IV. 2022.

*Elasmucha signoreti* Scott,1874

●セグロヒメツノカメムシ

1♀, 2. XII. 2022.

*Sastragala esakii* Hasegawa,1959

エサキモンキツノカメムシ

1ex., 6. IV. 2022.

(石川・宮本, 2012) により同定。

### ラクダムシ目

#### ラクダムシ科

*Inocellia japonica* Okamoto, 1917

ラクダムシ

1ex., 26. IV. 2025.

(石原, 1965b) により同定。

## コウチュウ目

### ジョウカイボン科

*Lycocerus insulsus lewisi* (Pic, 1906)

ウスチャジョウカイ西日本亜種

1♂, 11. IV. 2023.

### ハネカクシ科

*Oiceoptoma nigropunctatum* (Lewis, 1888)

クロボシヒラタシテムシ

1ex., 20. IV. 2024.

(黒澤, 1985) により同定。

### ジョウカイモドキ科

*Anhomodactylus gotoi* (Nakane, 1956)

●ナラアオジョウカイモドキ

中田・池田 (2023) で報告。

### カツオブシムシ科

*Dermestes vorax* Motschulsky, 1860

アカオビカツオブシムシ

1ex., 26. III. 2023.

*Attagenus (Attagenus) pellio* (Linnaeus, 1758)

シラホシヒメカツオブシムシ

1ex., 4. IV. 2022; 1ex., 1. IV. 2023. 亀澤保管.

### ゴミムシダマシ科

*Neatus picipes* (Herbst, 1797)

クロゴミムシダマシ

1ex., 9. III. 2025; 1ex., 16. XII. 2023.

(秋田・益本, 2016) により同定。

### テントウムシ科

*Aiolocaria hexaspilota* (Hope, 1831)

カメノコテントウ

1ex., 6. IV. 2022; 2exs., 12. XII. 2022.

*Harmonia axyridis* (Pallas, 1773)

ナミテントウ

1ex., 6. IV. 2022; 1ex., 12. XII. 2022.

*Sticholotis punctata* Crotch, 1874

ムツボシテントウ

1ex., 22. III. 2023. 亀澤保管

### ヒラタムシ科

*Cucujus mniszecchii* Grouvelle, 1874

ルリヒラタムシ

1ex., 20. IV. 2023; 4exs., 24. XI. 2023.

(佐々治, 1985) により同定。

### ゾウムシ科

*Scepticus insularis* (Roelofs, 1873)

クワヒョウタンゾウムシ

1ex., 7. V. 2023.

### カミキリムシ科

*Paraclytus excultus* Bates, 1884

シロトラカミキリ

1ex., 22. IV. 2024.

### ハムシ科

*Pyrrhalta esakii* Kimoto, 1963

エグリバケブカハムシ

1ex., 27. XI. 2023; 1ex., 6. XII. 2023.

*Paridea angulicollis* (Motschulsky, 1854)

アトボシハムシ

1ex., 15. XII. 2023.

*Gastrolina depressa* Baly, 1859

クルミハムシ

1ex., 8. III. 2025.

全て (木元, 1994) により同定。

## ハエ目

中田・大宮 (2023) で15科31種122個体を報告。そのうち種名が確定できた18種のうち、石川むしの会・百万石蝶談会 (1998) で記録されていたのは7種のみで、残りの11種は未記録であった。

## ハチ目

### ハバチ科

*Strongylogaster xanthocera* (Stephens,1835)

●ツノキナガワラビハバチ

1♂, 21. IV. 2022; 1♀, 24. IV. 2022; 1♂1♀, 5. V. 2022;  
1♀, 2. IV. 2023; 1♂, 11. IV. 2023; 2♀, 30. IV. 2023.

*Strongylogaster macula* (Klug,1814)

ナライシダハバチ

1♀, 5. V. 2022.

*Cladius (Priophorus) nigrotarsalis* (Wei,1998)

●和名なし

1♀, 5. V. 2022.

Kato (2021)で北海道と山梨県産の標本に基づき日本初記録された種。

*Apethymus* sp.

クリハバチ属の一種

1♂, 18. XI. 2022.

卵越冬を行い春に幼虫が出現し、晩夏～初冬に成虫が現れるという特徴的な生態を持つグループ。

採集例が少ない上、オスは既知種 8 種のうち、*A. hakusanensis* ハクサンクリハバチ、*A. ichitai* (和名無し)、*A. kuri* クリハバチ、*A. quercivorus* ミズナラハバチの4種しか見つかっておらず、本個体はこの4種のオスに該当しないため、属名までの同定とした。

### ヒメバチ科

*Caenocryptus canaliculatus* Momoi,1968

●クロシコクトガリヒメバチ

1ex., 30. IV. 2023.

*Agrothereutes ramellaris* (Uchida,1930)

エダトガリヒメバチ

1ex., 20. IV. 2023.

*Pimpla disparis* Viereck,1911

ヒメキアシヒラタヒメバチ

1ex., 2. XII. 2022.

### アリバチ科

*Mutilla mikado* Cameron,1900

ミカドアリバチ

1♀, 5. V. 2022.

(寺山ほか, 2016) により同定。

### アリ科

*Camponotus obscuripes* Mayr,G.(1879)

ムネアカオオアリ

1♀, 28. III. 2023.

(寺山ほか, 2014) により同定。

### スズメバチ科

*Polistes nipponensis* Pérez,1905

キボシアシナガバチ

1♀, 15. I. 2023; 1♀, 22. I. 2023; 1♀, 3. II. 2023;

2♀, 11. II. 2023; 1♀, 1. III. 2023; 2♀, 10. III. 2023;

*Vespa simillima xanthoptera* Cameron,1903

キイロスズメバチ

1♀, 20. IV. 2022; 1♀, 24. IV. 2022; 1♀, 29. IV. 2022;

1♀, 30. IV. 2023.

*Dolichovespula media* (Retzius,1783)

キオビホオナガスズメバチ

1♀, 28. XI. 2022.

3 種とも石川県ふれあい昆虫館の石川卓弥学芸員同定標本を参考にして同定。

### コハナバチ科

*Lasioglossum allodalum* Ebmer et Sakagami,1985 クラ

カケチビコハナバチ

1♀, 20. IV. 2023.

*Lasioglossum exiliceps* (Vachal,1903)

ミヤマツヤコハナバチ

1♀, 24. IV. 2022.

### ミツバチ科

*Bombus ignitus* Smith,1869

クロマルハナバチ

1♀, 12. IV. 2022; 2♀, 30. III. 2023.

*Apis cerana japonica* Radoszkowsli,1887

ニホンミツバチ

1♀, 11. IV. 2022; 1♀, 12. IV. 2022.

2 種とも石川県ふれあい昆虫館の石川卓弥学芸員同

定標本を参考にして同定した。

### 考察

(1) 今回、既報告種も含めて、クモ綱はクモ目1科2種、昆虫綱はバッタ目1科1種、ハサミムシ目1科1種、ラクダムシ目1科1種、カメムシ目5科14種、コウチュウ目10科15種、ハエ目15科31種、ハチ目7科16種となり、計8目41科81種を確認することができた。

(2) 宮ノ下・曲山(2014)は2013年12月に茨城県つくば市の建物内で見つかったマツヘリカメムシを記録しているが、今回のような幅広い分類群における冬季間における建物内の採集調査結果の報告は少ないものと思われ、筆者が本調査前に想定した種数を大幅に超えるものとなった。

(3) 現在、石川県内の昆虫綱をまとめた記録として、石川むしの会・百万石蝶談会(1998)、クモ綱では徳本(1990)があり、今回の採集記録において、これらに掲載されていないものは、石川県新記録の可能性が高いと考えられた。

本調査で5科14種を記録したカメムシ目のうち3科5種、10科15種を記録したコウチュウ目のうち1科1種、15科31種を記録したハエ目のうち8科11種、7科17種を記録したハチ目のうち2科3種の計9種がこれに該当した。特にハバチ科の *Cladius nigrotarsalis* は、今回日本から3例目となり、特筆すべき記録である。

(4) 今回観察舎内で確認できた82種の約25%となる20種が石川県新記録と思われる種であることは、冬季の山間部での調査不足やこれまで冬季間の調査が少なかったことが原因と考えられ、引き続き観察舎での調査継続により、より幅広い分類群の発見につながり、県立公園内の生物多様性解明が進むものと思われる。

### 結論

今回、8人の専門家の同定及び筆者による各種文献による同定によりクモ綱はクモ目1科2種、昆虫

綱は7目40科80種、計8目41科82種を記録することができた。

また、昆虫綱のうちカメムシ目の3科5種、コウチュウ目の1科1種、ハエ目の8科11種、ハチ目の2科3種の計9種が石川県新記録と思われる種であった。

石川県新記録と思われる種が全体の約25%であったことは冬季間における採集調査が不十分であることが考えられることから、引き続き冬季間における観察舎内での採集調査を継続する必要がある。

### 謝辞

クモ綱は慶應義塾幼稚舎の須黒達巳氏、カメムシ目は伊丹市昆虫館の長島聖大学芸員、コウチュウ目テントウムシ科、カツオブシムシ科はさいたま市の亀澤洋氏、カミキリムシ科は石川県白山市の八神徳彦氏、ジョウカイボン科は倉敷市自然博物館の奥島雄一学芸員、ゾウムシ科は元和歌山県立博物館の的場績氏、ハバチ科は神奈川県横浜市に加藤優羽氏、ヒメバチ科とコハナバチ科は神奈川県立生命の星・地球博物館の渡辺恭平学芸員に同定いただいた。

この場を借りて感謝申し上げます。

### 引用文献

- 秋田勝己・益本仁雄(2016)日本産ゴミムシダマシ大図鑑. pp. 302. むし社. 東京.
- 平松新一・中田勝之・安田雅美(2023)白山市尾添でのエルタテハ観察記録. 翔, 265:1-2.
- 石原 保(1965a)クヌギハサミムシ科 Forficulidae. 朝比奈正二郎・石原保・安松京三著者代表. 原色昆虫大図鑑(第III巻)(蜻蛉・直翅・半翅・膜翅他編). pp. 27(概説), 50, pl. 25. 北隆館. 東京.
- 石原 保(1965b)ラクダムシ科 Inocelliidae. 朝比奈正二郎・石原 保・安松京三著者代表. 原色昆虫大図鑑(第III巻)(蜻蛉・直翅・半翅・膜翅他編). pp. 50-52(概説), 160, pl. 80. 北隆館. 東京.
- 石川むしの会・百万石蝶談会(1998)石川の自然環境シリーズ, 石川県の昆虫. pp537. 石川県環境安全部自然保護課.

- 金沢市.
- 石川 忠・宮本正一 (2012) クヌギカメムシ科 Urostylidae. 石川 忠・高井幹夫・安永智秀編者. 日本原色カメムシ図鑑第3巻. pp. 101, 436–439. 全国農村教育協会. 東京.
- 石川 忠・安永智秀・友国雅章 (2012) カメムシ類の分類体系. 石川 忠・高井幹夫・安永智秀編者. 日本原色カメムシ図鑑第3巻. pp. 17–20. 全国農村教育協会. 東京.
- Kato, Y (2021) New distribution records of the genus *Cladius* (Hymenoptera: Tenthredinidae) from Japan and Korea, with notes on larva and host plant of *C. nigrotarsalis*. Japanese Journal of Systematic Entomology, 27:191–195.
- 木元新作 (1994) 成虫編. 木元新作・滝沢春雄. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. pp. 2–364. 東海大学出版会. 東京.
- 小谷直樹・谷野一道・南出洋・甲部芳彦 (2018) ブナオ山観察舎における大中型哺乳類の観察記録. 石川県白山自然保護センター研究報告, 44:49–52.
- 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター(編) (1989) 日本産昆虫総目録 I・II. 九州大学農学部昆虫学教室. 福岡.
- 黒澤良彦 (1985) シデムシ科 Silphidae. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編著. 原色日本甲虫図鑑 (II). pp. 246–252. 保育社. 大阪.
- 宮ノ下明大・曲山幸生 (2014) 茨城県つくば市において冬季に建物で発見されたマツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis*. ペストロジー, 29 (1) : 23–24.
- 中田勝之・池田大 (2023) 石川県におけるナラアオジョウカイモドキの記録. さやばねニューシリーズ, 51:31.
- 中田勝之・大宮正也 (2023) 2022～2023年に石川県白山市のブナオ山観察舎室内で採集されたハエ目昆虫類. はなあぶ, 56: 15–19.
- 中田勝之 (2024) ブナオ山観察舎の中で見つかるムシたち～建物の中のムシ～. はくさん, 51 (3) : 5–8.
- 中田勝之・加藤大智 (2024) 2022年と2023年に石川県白山市の白山およびその周辺で採集されたガガンボ上科. はなあぶ, 57:71–73.
- 中田勝之・後藤理子・平松新一 (2024) 白山市尾添におけるギフチョウの観察及び同地でのギフチョウのウスバサイシンの葉の表側への産卵観察記録. 翔, 268:5.
- 中田勝之・清水晃・米田洋斗 (2025) 2023, 2024年に白山周辺から採集されたギングチバチ科およびクモバチ科. 石川県白山自然保護センター研究報告, 51:56–64.
- 佐々治寛之 (1985) ヒラタムシ科 Cucujidae. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著. 原色日本甲虫図鑑 (III). pp. 198–205. 保育社. 大阪.
- Shinohara, A., S. Ibuki & H. Hara (2023) The sawfly genus *Apethymus* (Hymenoptera, Tenthredinidae) of Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 29:316–332.
- 杉本雅志 (2006) カマドウマ科 Raphidophoridae. 日本直翅類学会編. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑, pp. 11–43, 361–392. 北海道大学出版会, 北海道.
- 鈴木 茂 (2025) 日本列島の甲虫全種目録. <https://japanesebeetles.jimdofree.com/> (2026年1月24日閲覧)
- 多田内修・村尾竜起 (2014) 日本産ハナバチ図鑑. 文一総合出版, 479pp. 東京.
- 寺山 守・久保田敏・江口克之 (2014) 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店, 278pp. 東京.
- 寺山 守・須田博久・室田忠男・田塾 正 (2016) アリバチ科 Mutillidae. 寺山 守・須田博久編著, 日本産有剣ハチ類図鑑, pp. 161–174, 493–495, 552–553, 567, 592–594. 東海大学出版部, 平塚.
- 寺山 守・須田博久編著 (2016) 日本産有剣ハチ類図鑑. pp. 524. 東海大学出版部, 平塚.
- 徳本 洋 (1990) 石川県の真正クモ類. 石川の生物編集委員会(編), 石川県の生物. pp. 200–207, 石川県高等学校教育研究会生物部会, 金沢.
- 渡辺恭平・藤江隼平 (2022) 日本産ヒメバチ上科(膜翅目)の属への検索表. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 特別出版物, 第2号. pp. 524. 小田原市.